



教師と子どもの信頼関係に関する研究
—哲学対話におけるファシリテーターのあり方に着目して—

教育学部 田中直美

福山市立大学 2022年度 重点研究



研究の目的・過程

哲学対話／子どもの哲学(p4c)で期待されていること

(1) アクティブ・ラーニングの手法 (2) お互いに違いを認め合う共同体づくりの役割

→「信頼」がなければそれらは充分にはなされない

「信頼」や教師の態度についての研究蓄積が不十分

→そもそも「信頼」をどうやって計るのか？

→何への「信頼」なのか？

理論的には・・・

実践的には・・・

対話者が信頼しているのは

「場」への信頼

「わからなさ」「新しさ」「変化」

ファシリテーターのあり方から、教師と子どもの信頼関係（「場」の安心）構築のさいに教師に求められる姿勢を明らかにすることを目指す。

「対話の時間」の流れ

- 1 研究の趣旨・倫理的配慮についての説明
- 2 哲学対話についての説明
- 3 ニックネーム決め・名札づくり
- 4 対話の場のセッティング
- 5 自己紹介・コミュニティーボールづくり
- 6 問い出し・問い決め
- 7 ルール確認
- 8 対話
- 9 ふりかえりシートのご案内



重点研究の成果



(1) Naomi Tanaka, "Monologue and Dialogue" International Council of Philosophical Inquiry with Children: The 20th Biennial International ICPIC Conference, in Tokyo, 2022年8月9日 (シンポジウム)

(2) 田中直美「なぜ対話が求められているのかーF.ローゼンツヴァイクの真理概念を手がかりにー」日本哲学プラクティス学会、オンライン、2022年8月28日【招待あり】(シンポジウム)

* その他の成果は今後公開予定です。